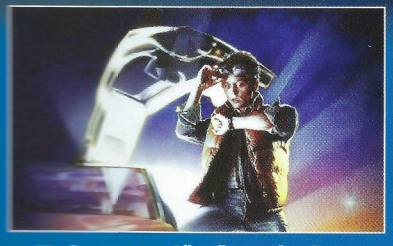
週刊 バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン

BACK TO THE FUTURE DELOREAN

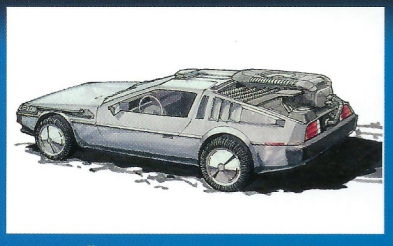
1

メイキング・ザ・ムービー



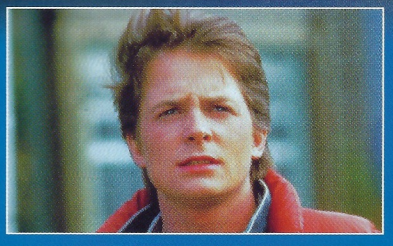
ふたりのボブの出会い
―誕生のきっかけ―

ビハインド・ザ・シーン



デロリアンの誕生
―タイムマシンのデザイン―

コラム・オブ・ザ・フューチャー



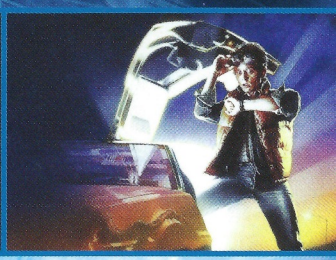
マイケル・J・フォックス
―マーティ・マクフライ―

DeAGOSTINI

週刊 バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン

BACK TO THE FUTURE DELOREAN 1





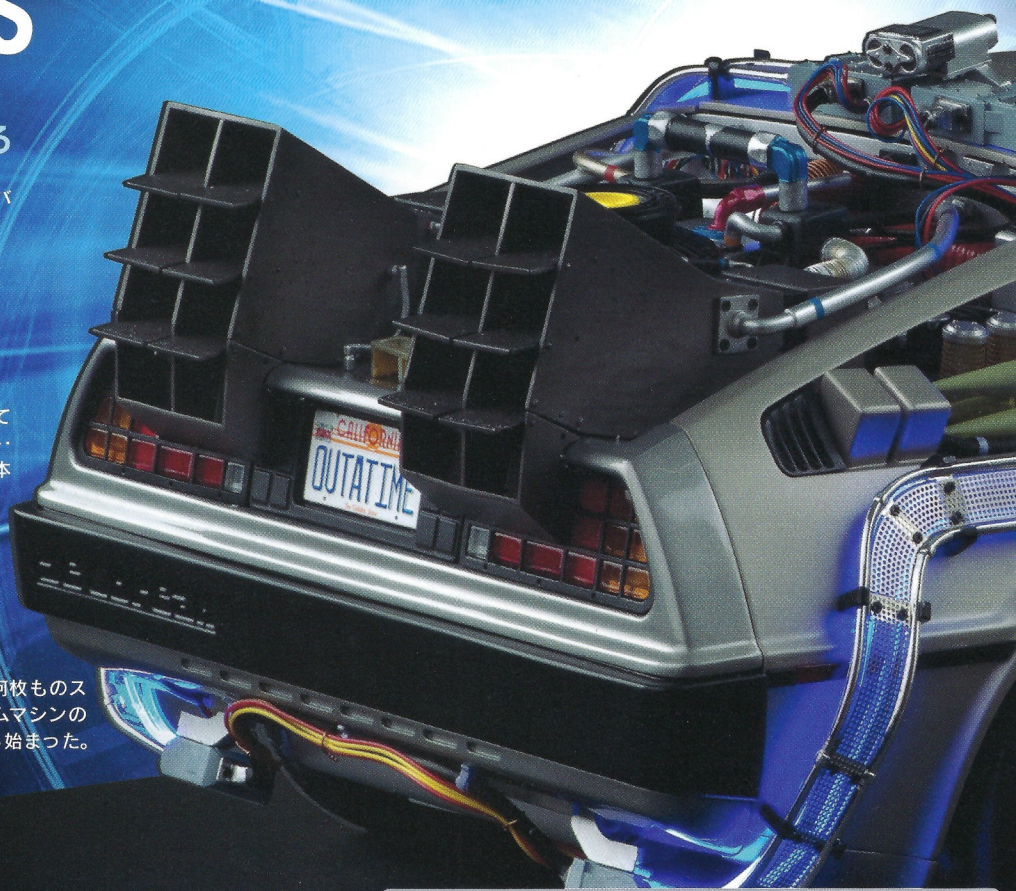
CONTENTS

1 *さあ、あのデロリアンを作ろう！*
リアセクションを組み立てる
モデルはリアセクションから組み立て始める。「OUTATIME」のナンバープレートを組み立て、バンパーやライトを取り付けよう。

6 *メイキング・ザ・ムービー*
ふたりのボブの出会い
—誕生のきっかけ—
『バック・トゥ・ザ・フューチャー』はどのようにして生み出されたのか。きっかけとなる監督ロバート・ゼメキストとの出会いや当初のストーリーを脚本家ボブ・ゲイルが振り返る。

8 *ビハインド・ザ・シーン*
デロリアンの誕生
—タイムマシンのデザイン—
映画史上最も有名なタイムマシン、デロリアン。何枚ものスケッチが描かれ、試行錯誤が繰り返されたタイムマシンの開発は、アンドリュー・プロバートの絵コンテから始まった。

12 *コラム・オブ・ザ・フューチャー*
マイケル・J・フォックス
—マーティ・マクフライ—
『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の主人公を演じ、ハリウッドスターの仲間入りを果たしたマイケル・J・フォックスは当初、ほかの撮影も同時にこなしていたという。



お買い忘れなく安心！発売日をメールでお知らせします！
ご登録ください
発売日お知らせメール♪
http://deagostini.jp/oshirase/del/

週刊 バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン 第1号

［発行日］2017年2月21日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ
［発行人］小河原和世
［編集人］加藤美香子

©2017 K. K. DeAgostini Japan　All rights reserved.

［印　刷］株式会社大丸グラフィックス
［アートディレクション］今福健司
［編集協力］株式会社T's クリエイト
［デザイン］mt design

© 2017 Universal Studios and U-Drive Joint Venture. Back to the Future, Back to the Future Part II, and Back to the Future Part III are trademarks and copyright of Universal Studios and U-Drive Joint Venture. Licensed by Universal Studios Licensing LLC. All rights reserved.

本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。

■お客様サポートセンター
（本誌関連の一般的な質問を承ります）
☎：0570-008-109
（月～金 10:00～18:00 土日祝日除く）
※間違い電話が大変多くなっております。お電話の際は電話番号をよくお確かめください。また万一不良品がございましたら、上記の電話番号までお問い合わせください。

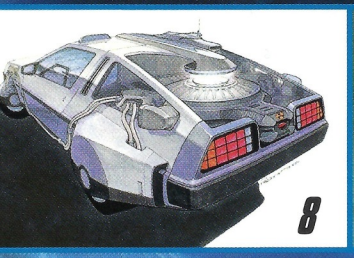
定期購読のご案内

週刊『バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全130号です。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. お客様受注センターに電話またはファクスで
0120-300-851（9:00～21:00　年末年始を除く）
0120-834-353（定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）
2. インターネットで
http://deagostini.jp/del/（24時間受付）※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます
3. 定期購読申し込み用紙を郵送
「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合はお客様受注センターまでご連絡ください。

●バックナンバー／バインダー注文のご案内
本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記お客様受注センターまでお問い合わせください。

※本誌は都合により、刊行サイクルが変更されたり、休刊となることがありますので、あらかじめご了承ください。
※本誌は号によりパッケージの形態・デザインが異なる場合がございます。





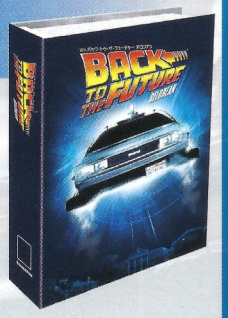


「特製バインダー」を第4号と同時発売!!

1冊で『バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン』を20号分綴じられる、保存に便利な特製バインダーを2月28日に第4号と同時発売します。価格は期間限定特別価格647円／税抜き（通常価格1,230円／税抜き）。お近くの書店か、専用ウェブサイトでお求めください。

※特別価格は2017年8月末まで

※読者全員プレゼントにて1冊プレゼントになります。全130号には、6冊お求めください。





デジタル版

※デジタル版は、本誌をデジタルデータ化したものです。

バインディング
ラクラク検索
ふせん機能

本誌各号にプラス100円で!!（各1冊/税込）

※Webから紙面版と同時購入の場合

対応機種 iPhone /iPod touch / iPad /PC (mac / windows) Android OS 対応

詳しくはWEBで！ デアゴ書店 検索

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

http://deagostini.jp/del/

【個人情報の取扱いについて】＊注意 お申し込み前に下記規約を必ずお読みください。ご提供いただく個人情報は、商品の発送、各種商品情報やお問い合わせへの回答、および資料の送付、商品開発およびサービス改善のためのデータ分析に利用します。お客様の個人情報は、弊社と同等以上の管理体制を有している委託先への業務委託、第三者提供についてお客様の個別の同意を事前に得た場合、法令等の規定に基づく場合を除き、第三者提供をすることはありません。ただし個別のサービスをご提供するため、お客様の同意を事前に得た場合に限り第三者提供を行う事がございます。なお、業務委託のうち、クレジットカード決済に関しましては、決済を行うために、弊社と同等以上の管理体制を有する決済処理サービス会社に提供し、そこでクレジット決済後1ヶ月間、その情報を保管します。個人情報のご提供はお客様の任意ですが、項目に未記入部分がある場合、お申し込みの手続きがとれない場合もあります。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報保護相談受付窓口（03-6730-3793 土日、祝日、年末年始、夏季休暇を除く10：00～18：00）にて受け付けております。株式会社デアゴスティーニ・ジャパン 個人情報管理責任者（コンプライアンス担当）弊社の個人情報、公表事項も合わせてご覧下さい。http://deagostini.jp/security/

10190770(05)

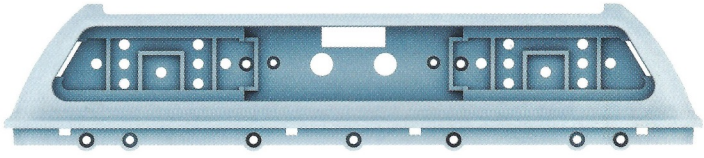
今号のパーツ

まず組み立てるのは、デロリアンのリアセクション。ナンバープレート、バンパー、ライトなど、後部のパーツを組み合わせて行く。

※イラストは、実際のパーツと異なる部分もあります。

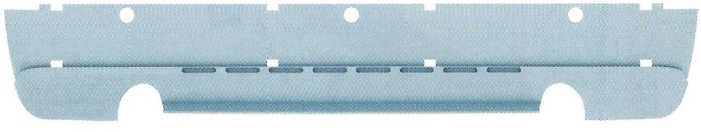


1-A リアバンパー



1-C リアセクション・上部

※金属パーツのネジ穴や切り込みなどのバリ（成型の際に生じる不要な突起）が目立つ場合は、金属用のヤスリを使って取り除いてください。



1-B リアセクション・下部



1-D ナンバープレート・ベース



1-E ナンバープレート

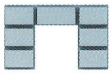
1-F ステッカー（1枚ずつ予備）



1-G フレーム・右



1-L ナンバープレート・ライト



1-H ライト1



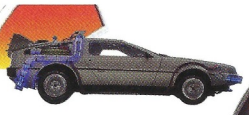
1-I ライト2



1-J ライト3　1-K ライト4

AP ネジ（M1.7 x 4mm）x 9（5本は予備）

BP ネジ（M2.3 x 4mm）x 7（2本は予備）



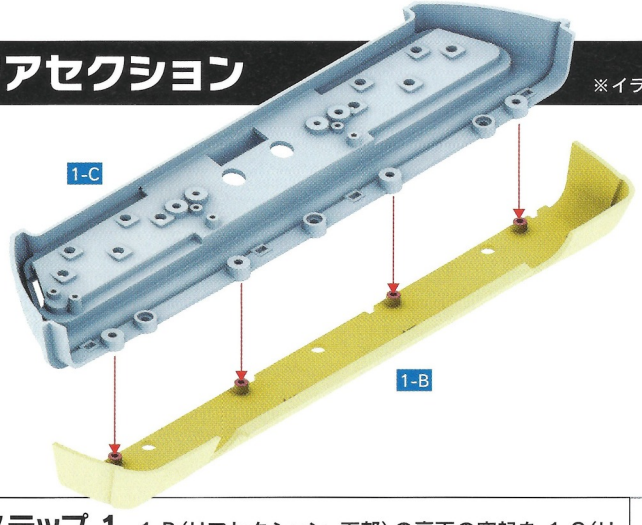
リアセクションを組み立てる

映画史上最も有名なタイムマシン、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に登場するデロリアン。8分の1のビッグスケールモデルは、リアセクションから組み立て始める。ナンバープレートを組み立て、バンパーやライトを取り付けよう。

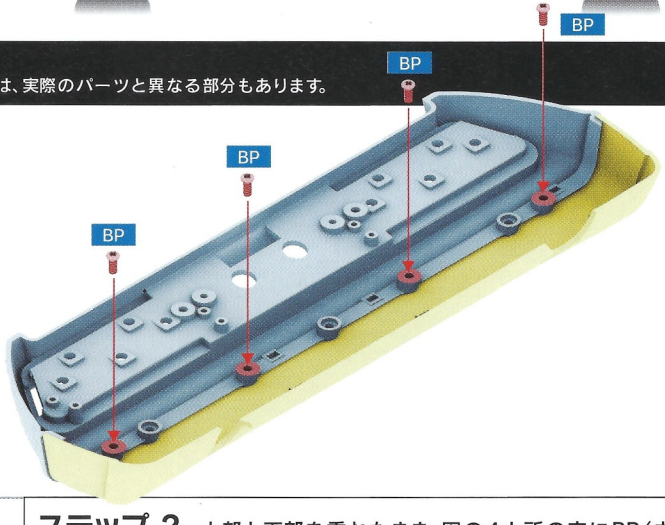


リアセクション

※イラストは、実際のパーツと異なる部分もあります。



ステップ 1 1-B（リアセクション・下部）の裏面の突起を、1-C（リアセクション・上部）の、図の4カ所の穴に合わせて重ねる。

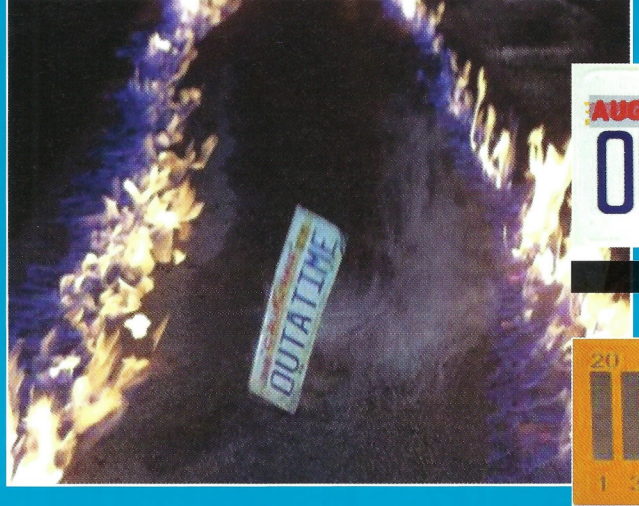


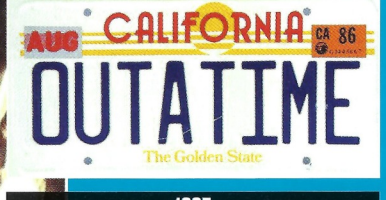
ステップ 2 上部と下部を重ねたまま、図の4カ所の穴にBP（ネジ）を1本ずつ入れ、付属のドライバーでしっかりと締める。

ナンバーに注目!

デロリアンの印象的な特徴のひとつがナンバープレート。「OUTATIME」の文字が書かれたカリフォルニア州の特製ナンバープレートである。直訳すれば“時間を超える”の意味のアルファベットが配列されたナンバープレートが初めて登場するのはパートⅠ。1985年に最初のテストドライブでデロリアンが消え去った後、炎が立ち上る轍の間に、取り残されたナンバープレートがクルクルと回転している。

パートⅠのラストシーンでは、2015年から戻ったデロリアンが登場する。デロリアンにはドク・ブラウンによっていくつかの改造が加えられ、飛行可能になっていたり、生ゴミを動力に変えられるエネルギー変換装置「ミスター・フュージョン」が搭載されていたりする。ここで注目したいのが、ナンバープレート。プレートも付け替えられていて、近未来的なバーコードに変わっている。





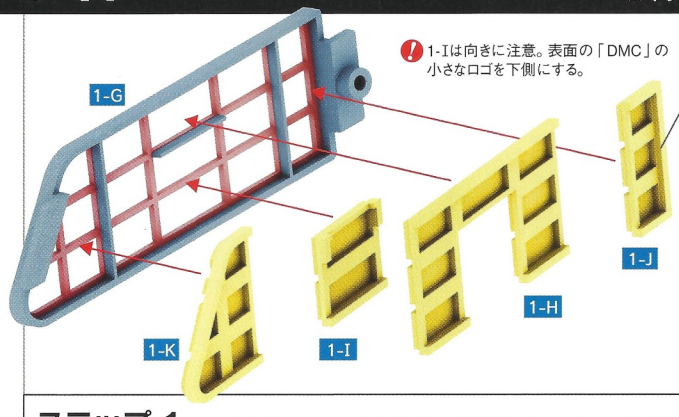
1985

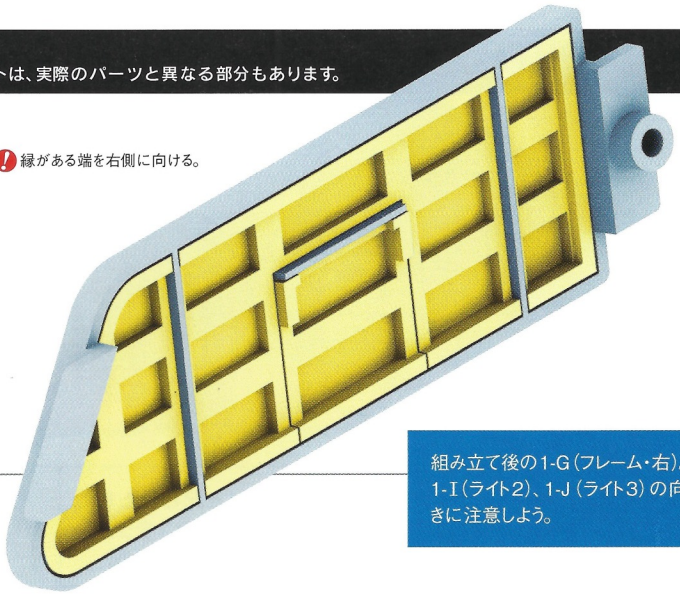


2015

ライト

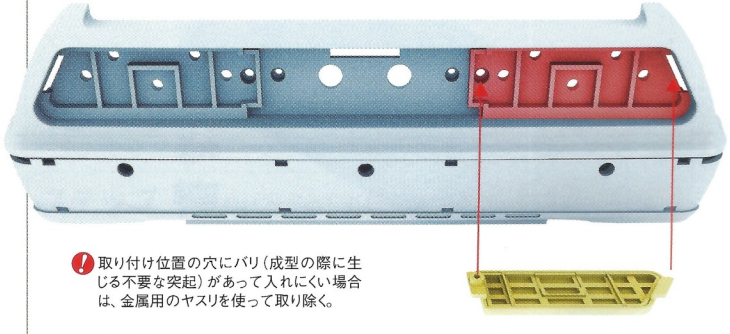
※イラストは、実際のパーツと異なる部分もあります。



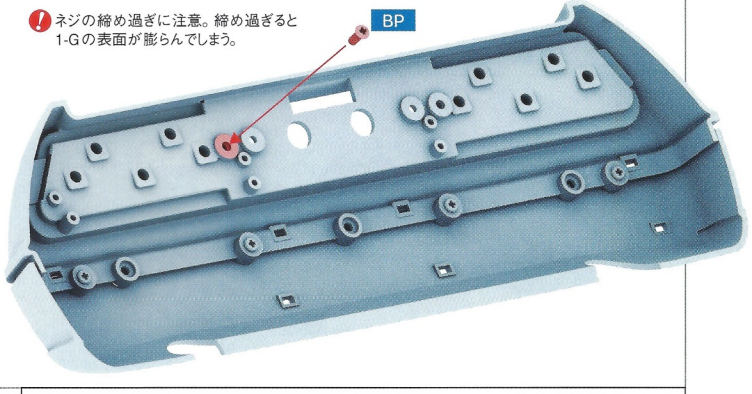


組み立て後の1-G（フレーム・右）。1-I（ライト2）、1-J（ライト3）の向きに注意しよう。

ステップ 1 1-G（フレーム・右）の図の位置に1-H、I、J、K（ライト1～4）をはめ込む。1-I（ライト2）の向きに注意。表面の「DMC」の小さなロゴを下側にしよう。



ステップ 2 ライトが外れないように注意しながら、1-G（フレーム・右）を、リアセクションの右側に図のようにはめ込む。外側の突起を穴に入れてから、残りの部分をはめ込もう。



ステップ 3 リアセクション裏側の図の位置の穴にBP（ネジ）を1本入れ、ドライバーで締める。ネジを締め過ぎると、1-G（フレーム・右）の表面が膨らんでしまうので注意しよう。

ネジについて

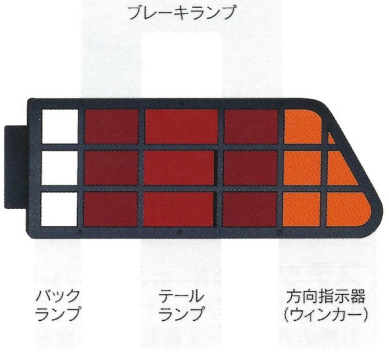
ネジのアルファベット表記

ネジの「AP」「BP」などの表記は、1文字目の「A」や「B」は大きさの違いを表示。2文字目の「P」はプラスチック（樹脂）製の部品に使うことを表し、金属部品に用いるネジは「M」の表記になる。

プラスチック部品用ネジの締め方のコツ

- プラスチック部品に使うネジは、ネジを締めるとネジ自身が溝を作っていく。そのため、ドライバーをしっかりと握り、先端がネジの頭から外れないようにして、押し込むように回すのがコツ。
- プラスチック部品用のネジはきつく締め過ぎるとネジ穴の溝が潰れ、固定できなくなるので注意。パーツがしっかりと固定されたら、それ以上締める必要はない。
- ネジは必ず垂直に締める。斜めに締めると途中できつくなり、締められなくなる場合がある。きつくなったネジを無理に締めると、部品が破損することもあるので注意。きつくなった場合は、少し戻してから再度ゆっくりと締める。
- ネジを半分まで締めた時点で1回転分緩め、それから最後までネジを締めると、プラスチックの削りかすが隙間から外れ、ネジが詰まってしまうのを防げる。
- ネジを外してもう一度締める場合は、なるべく最初にできたネジの溝に合わせよう。

リアのライトの配置は、実物のデロリアン「DMC-12」と同じだ。各ライトには下の役割がある。

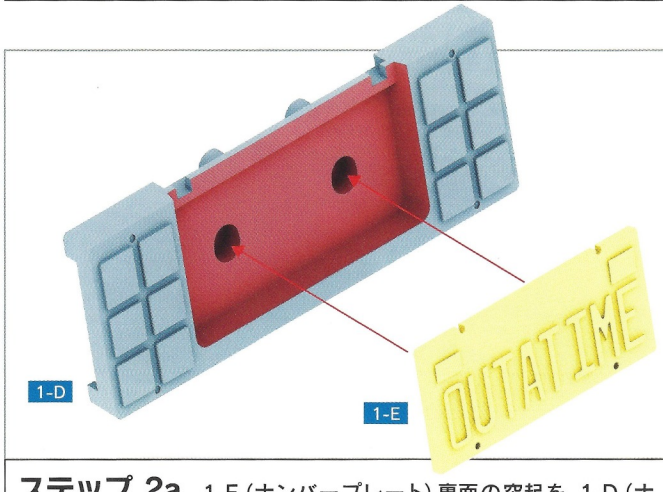


ナンバープレート

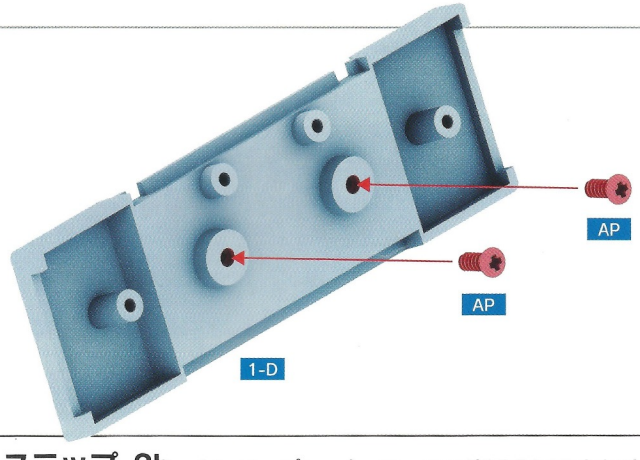
※イラストは、実際のパーツと異なる部分もあります。



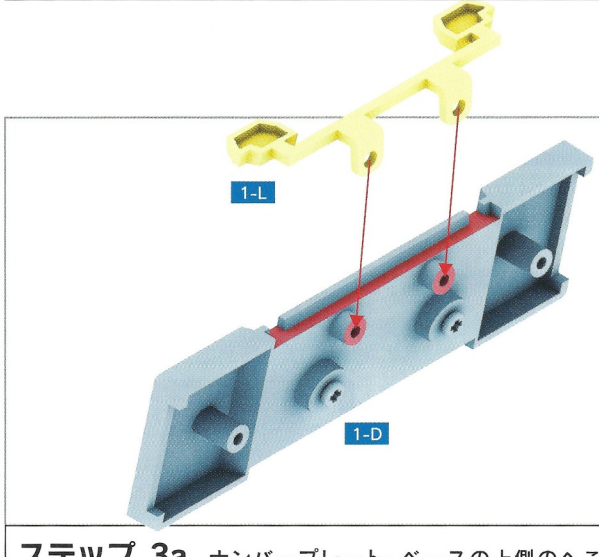
ステップ 1 1-F (ステッカー) のうち、「AUG」と記されたものを、1-E (ナンバープレート) の「O」の上に貼る。もう一方のステッカーは「E」の上に貼る。位置は2ページ右下の写真を参考にしよう。



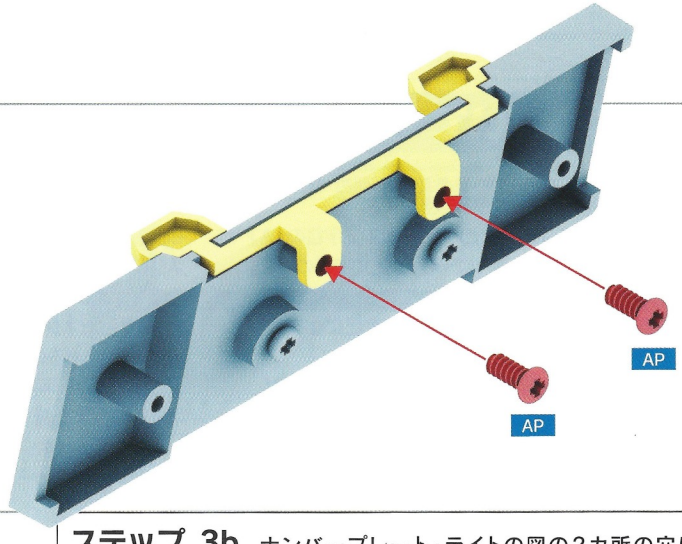
ステップ 2a 1-E (ナンバープレート) 裏面の突起を、1-D (ナンバープレート・ベース) の穴に差し込む。向きを間違えないように注意しよう。



ステップ 2b ナンバープレート・ベースの裏面の図の2カ所の穴に、AP (ネジ) を1本ずつ入れ、ドライバーで締める。



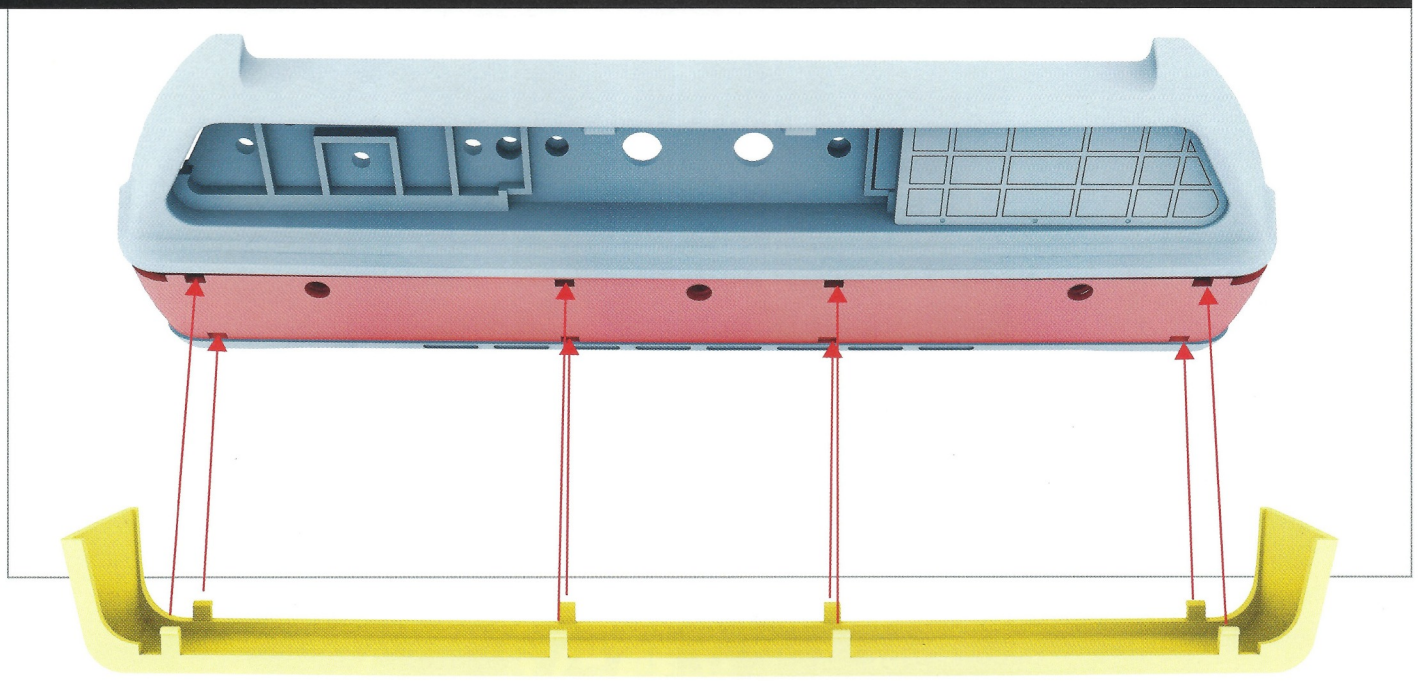
ステップ 3a ナンバープレート・ベースの上側のへこみに、1-L (ナンバープレート・ライト) を図の向きではめ込む。ライトの2カ所の穴をベース裏側の穴と合わせよう。

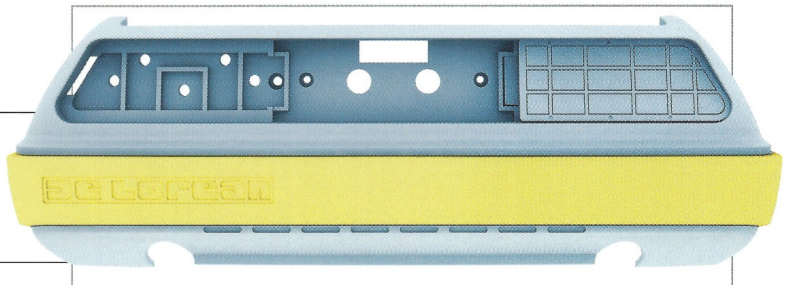


ステップ 3b ナンバープレート・ライトの図の2カ所の穴に、AP (ネジ) を1本ずつ入れ、ドライバーで締める。ナンバープレートは、次号でリアセクションに取り付ける。

バンパー

※イラストは、実際のパーツと異なる部分もあります。



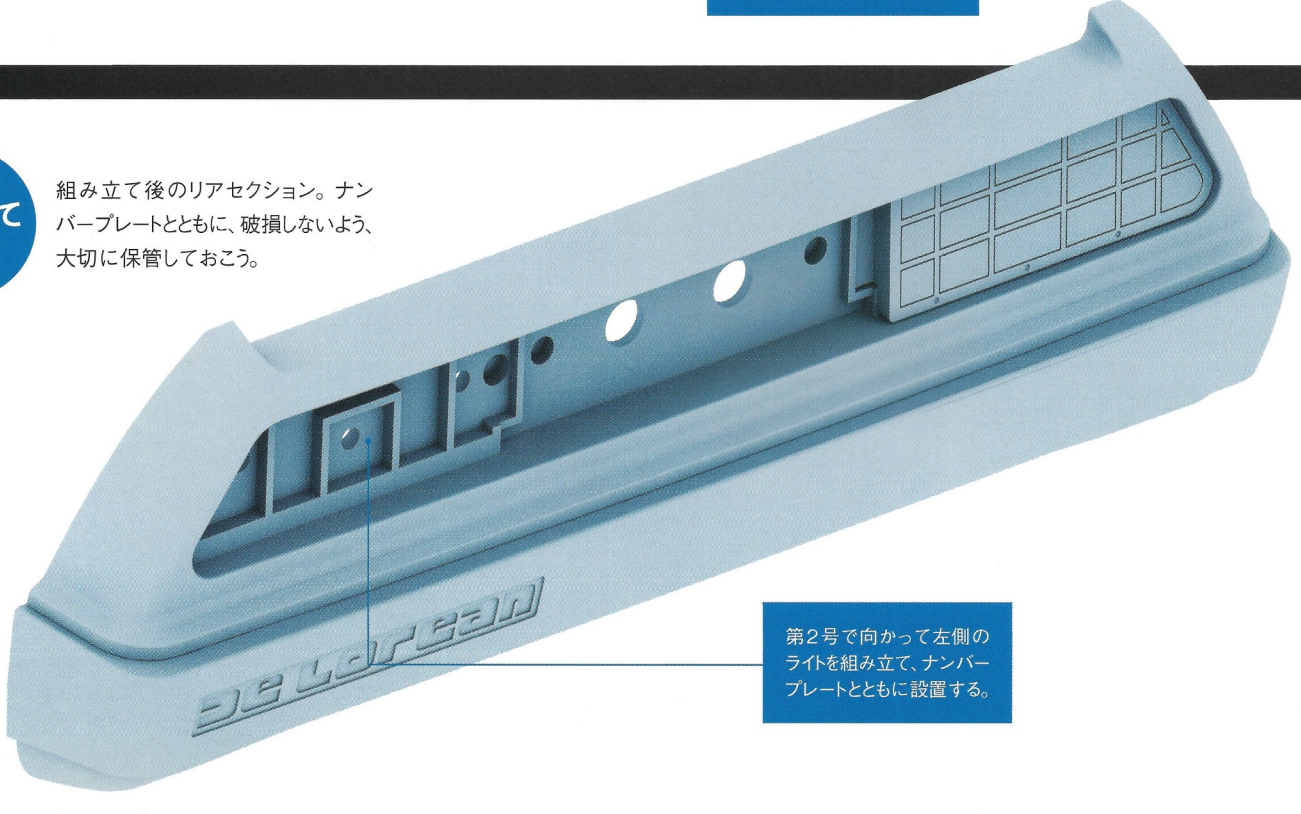


ステップ 1 「DeLorean」のロゴの向きに注意しながら、1-A（リアバンパー）をリアセクションの図の位置に取り付ける。バンパーの突起をリアセクションの穴に合わせて押し込もう。

組み立て後のリアセクション。「DeLorean」のロゴの向きに注意しよう。

今号の組み立て完成

組み立て後のリアセクション。ナンバープレートとともに、破損しないよう、大切に保管しておこう。



第2号で向かって左側のライトを組み立て、ナンバープレートとともに設置する。

ふたりのボブの出会い

誕生のきっかけ

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』はどのようにして生み出されたのか。きっかけとなる監督ロバート・ゼメキストとの出会いや当初のストーリーを、脚本家ボブ・ゲイルが振り返る。



パートⅠの公開から30年以上が経っても、多くの人を魅了し続けている『バック・トゥ・ザ・フューチャー』。ロバート・ゼメキス監督による予測不能のコメディ・アドベンチャーは、20世紀におけるアメリカ映画の最高傑作のひとつ、そして史上最高のタイムトラベル映画とも評されている。この名作はどのようにして生み出されたのだろうか。そのきっかけは、ふたりのボブの出会いにあった。

大学での出会い

ロバート（ボブ）・ゼメキスとボブ・ゲイルは、1971年、南カリフォルニア大学で出会った。ハリウッド映画に傾倒するふたりはその後、友情を深めていく。ゲイルは当時を次のように振り返る。「僕は脚本家、ゼメキスは監督を目指していた。だから、手を組むことは自然の流れだった」。映画学科の学生だったふたりは、すぐに最初の映画プロジェクトに着手した。低予算のホラー映画『ボーデロ・オブ・ブラッド／血まみれの売春宿』である。ちなみに、このときプロジェクトは実現しなかったが、後の1996年、テレビドラマ『ハリウッド・ナイトメア』の一環として製作されている。

フューチュラマ

1939年のニューヨーク万国博覧会の「フューチュラマ（フューチャーとパノラマの造語。ジオラマ展示とライド型のアトラクション）」では、20年後のアメリカの姿をイメージした壮大なジオラマが展示された。モダニズム建築家のノーマン・ベル・ゲッデスがデザインしたジオラマには、ロボットやロケット、自動化された高速道路などが組み込まれていた。ゲイルは振り返る。「僕らは、そうしたイメージを見て育った。“ワオ、未来の生活はクールだ！”と思っていたんだ。もちろん、ベル・ゲッデスの作った未来は実現しなかった。だから、主人公が未来にタイムトラベルする映画を作ろうというアイデアが生まれたんだ」。



未来の世界
戦後のアメリカにおける未来像は、空飛ぶ車、ロボットの召使い、そして家族を守るというものだった。

“未来予想がいかに当てにならないか我々はそれに魅せられた”

—— ボブ・ゲイル ——

1970年代に思いついたこのアイデアが、ゲイルとゼメキスを『バック・トゥ・ザ・フューチャー』へと向かわせた。「タイトルはひらめいていた」とゲイルは話す。「『ブラウン教授、未来へ行く』さ。だけど、まだストーリーはなかった。主人公を引き立たせる“つかみ”が必要だった。ドラマチックな何か。タイムトラベルという基本アイデアを映画へと変える何かがね」。

“つかみ”の発見

そうした折、実家に立ち寄ったゲイルは、たまたま手に取った父親の遺品のなかに、探し求めていたインスピレーションを見つけた。「父親の高校時代のアルバムを見ていたときだったんだ。その瞬間、ストーリーを手に入れたと確信したね」。

ゲイルは父親が学校の弁論部に所属していたのは知っていたが、級長を務めていたことを知って驚く。「アルバムを手に取るまで、父がどんな生徒だったかなんて考えたこともなかった。高校時代の話なんて、家族の間でしたことなかったからね」。自分と父親が、もし高校の同級生だったら友達になっただろうか？　もし過去に遡り、自分の両親と同じ学校に通うことができたら？　映画の“つかみ”が見つかった。

「家族映画といえば、“パパは何でも知っている（アメリカで人気を博したコメディ・ドラマにかけている）”が決まり文句だった。だから、それを覆そうと思ったんだ。子供は父親と同級生で、でも父親は負け犬。そんな父親のピンチを子供が救ってあげるのはどうだろうと。普通なら、30歳の年の差があるので不可能さ。タイムトラベル映画以外ではね」。

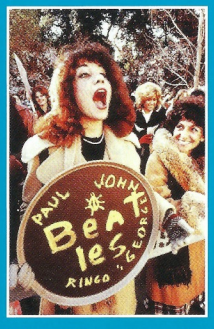
『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のストーリーの骨格が形を成し始めた。「ゼメキスは母親も同級生にしようと言い出したんだ。しかも、息子が思いもつかないほど、性に大胆な女性にしようと……」。

1980年、ゲイルは最初の脚本を書き始め、マーティを1952年に連れて行くことにした。そして、あの万国博覧会のイメージもうまく組み込んでいた。「最初の脚本では、最後にマーティが戻ってくる現在は、ベル・ゲッデスがフューチュラマで考えた1980年代をもっと高度にしたものだったんだ。でも、誰も気に入らなかった。周りの人たちに理解されなかったんだ」。

しかし、ゲイルはそのアイデアを捨てなかった。その後、脚本は何度か書き換えられ、第3稿ではエンディングが手直しされた。「みんなから変更するよう説得され、続編に使うことに決めたんだ……」。

ふたりのボブ

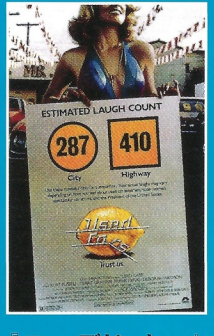
ロバート・ゼメキスとボブ・ゲイルは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の前に3本の映画を製作している。



『抱きしめたい』（1978年）
ゼメキスとゲイルにとって最初の青春映画。1960年代のビートルズの熱狂的ファンを描いたコメディ。



『1941』（1979年）
ふたりがともに脚本を務めた、第二次世界大戦を舞台にしたコメディ。監督はスピルバーグ。

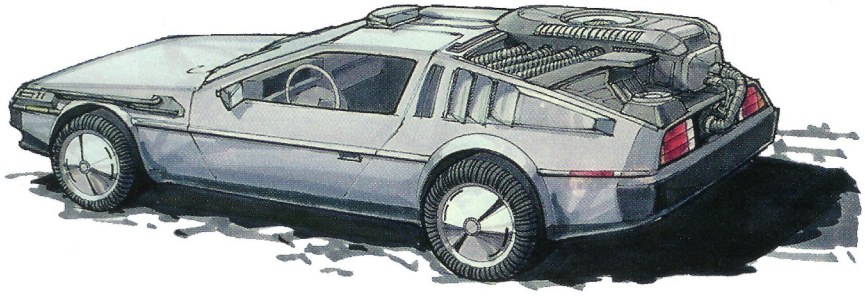


『ユーズド・カー』（1980年）
カート・ラッセルが口先のうまい中古車セールスマンを演じたドタバタコメディ。

デロリアンの誕生

タイムマシンのデザイン

映画史上最も有名で、モデルとなった実車を広く知らしめたタイムマシン、デロリアン。何枚ものスケッチが描かれ、試行錯誤が繰り返されたタイムマシンの開発は、デザイナーであるアンドリュー・プロバートの絵コンテから始まった。



ドク・ブラウン（クリストファー・ロイド）が開発したデロリアンほど、有名なタイムマシンは映画史上ほかにない。デロリアンはどのようにして作り出されたのか。その製作過程では、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』三部作のストーリーと同様、試行錯誤が繰り返されている。

パートⅠの脚本の初期のアイデアでは、タイムマシンは冷蔵庫のような形状だったが、監督ロバート・ゼメキスと脚本家ボブ・ゲイルは、すぐにこのデザインの限界に気付いた。時間との戦いとなるフィナーレで、装置を動かす必要があったからである。そして第3稿の脚本で、車にタイムマシンの機能を持たせる案を思いつく。後にデロリアンのデザイン・コンセプトに貢献したデザイナーのアンドリュー・プロバートは、次のように述べている。「車はずっとデロリアンの予定だった」。

プロバートは、ゼメキスやゲイルと交流のあったスティーヴン・スピルバーグが新設したアンブリン・エンターテインメント社が『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を製作するにあたり、製作に携わったチームの一員だった。ゼメキスは映画の絵コンテ家としてプロバートを採用し、タイムマシンのデザインはコンセプトアーティストのロン・コブに任せた。「絵コンテを描き始めたけど、まだロンは加わっていなかった。とはいえ、何らかの車が必要だった」とプロバートは語る。「私がデザインして、いくつかの案を作ったよ」。

その後プロバートはディテールを詰め、映画の象徴となるタイムマシンが形となり始める。

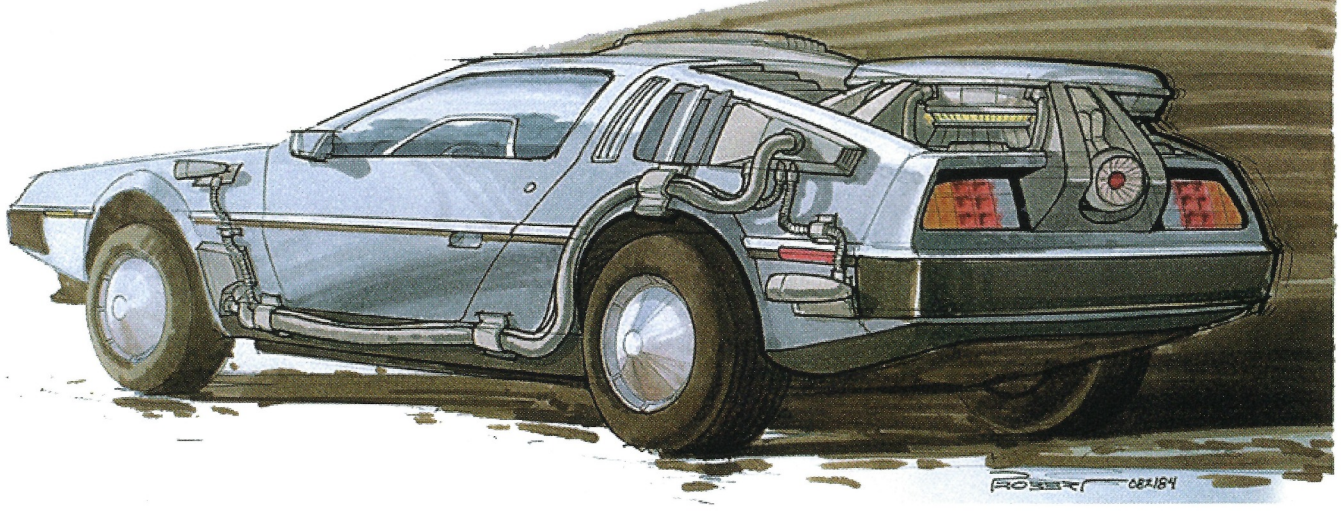
OUTATIME
アンドリュー・プロバートによるタイムマシンのデザインスケッチの一枚。

ディテールの作り込み

実物のデロリアン、正式名称「DMC-12」は、デロリ

“誰がこの車をデザインするんだい？”
—— アンドリュー・プロバート ——

プロバートの絵コンテ
アンドリュー・プロバートは絵コンテに必要だったため、自らタイムマシンをデザインした。



アン・モーター・カンパニーによって1981年に発売が開始され、翌年末の倒産によって販売終了となったが、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のヒットによって広く知られるようになった。最終の撮影台本では、ドク・ブラウンがデロリアンについて、独特な無塗装のステンレス製構造が“フラックスの消散”のためにいかに理想的であり、新時代のタイムトラベラーの乗り物として論理的な選択であるかを説明している。

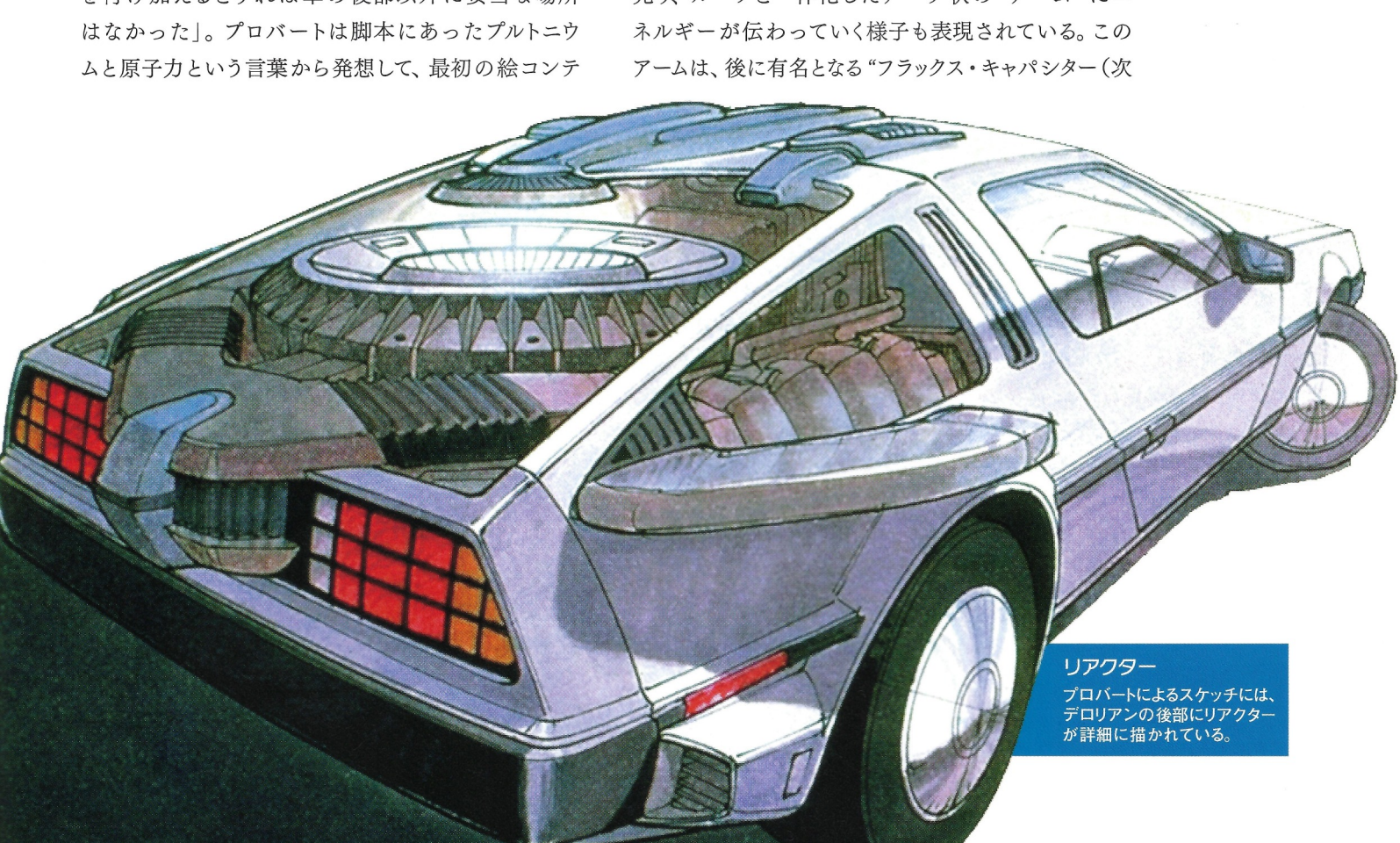
流線形のボディデザイン、無塗装ステンレスボディのメタリックな光沢、印象的なガルウイングドアなど、デロリアンはいかにも近未来的だった。1950年代に戻り、放射線防護服を着たマーティ（マイケル・J・フォックス）が納屋に突っ込み、“火星から来た宇宙人”に間違えられるシーンは、デロリアンのデザインに対する遊び心あふれるオマージュともいえる。しかし、タイムマシンの基本デザインはまだ不十分だった。納得のいくものとするには、もう少し装飾が必要だった。

「脚本で示されていたか確かではないけど、何かを付け加えるとすれば車の後部以外に妥当な場所はなかった」。プロバートは脚本にあったプルトニウムと原子力という言葉から発想して、最初の絵コンテでデロリアンのエンジンルームに“機械”を詰め込んだ。初期のデザインの特徴は、エンジンルームをほぼ占有する円形の“リアクター”だった。「あるときにはリアクターを端に寄せてみるなど、納得いくまであらゆる方法を試したよ」。

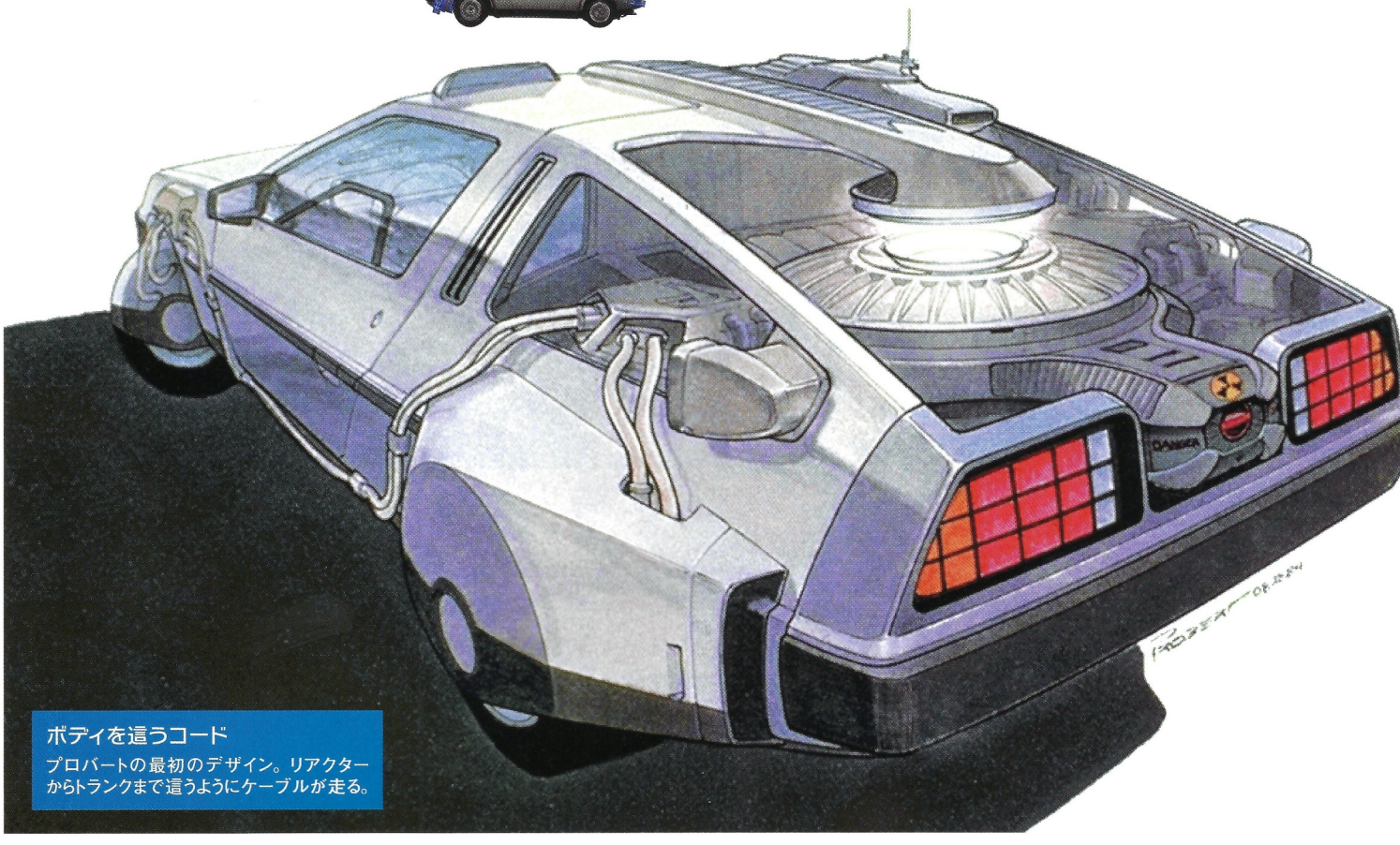
絵コンテには、リアクターのボウル状の部分が白く光り、ルーフと一体化したアーチ状の“アーム”にエネルギーが伝わっていく様子も表現されている。このアームは、後に有名となる“フラックス・キャパシター（次



火星から来た宇宙人
プロバートによる絵コンテの挿絵。デロリアンがヒル・バレーの納屋に“不時着陸”するシーン。



リアクター
プロバートによるスケッチには、デロリアンの後部にリアクターが詳細に描かれている。



ボディを這うコード
プロバートの最初のデザイン。リアクターからトランクまで這うようにケーブルが走る。

“私のデザインは、ふたりに工業製品のような印象を与えた”

—— アンドリュー・プロバート ——

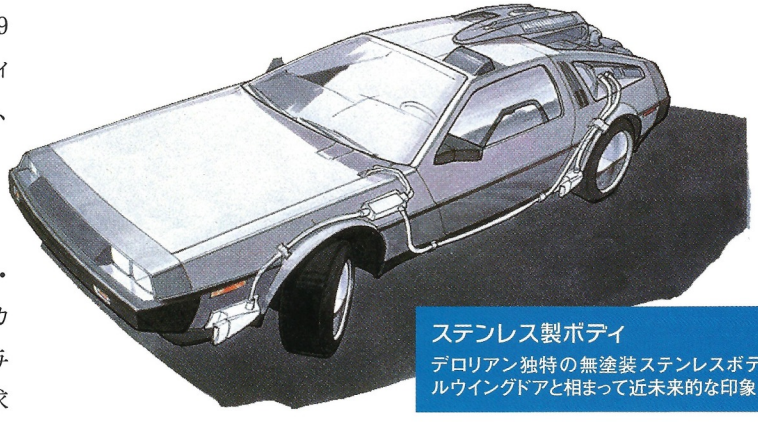
元転移装置）”の外側部分で、二人乗りのコクピットの天井に設置することを想定していた。

絵コンテにはそのほかにも、トランクからリアクターまでボディを這うケーブルや、ルーフに付けられた小型アンテナなどが見られる。

“危険な”デザイン

プロバートは常々、“超先進的なデザイン”を信条としていた。それは彼が携わった『スタートレック』（1979年）の宇宙船や、テレビシリーズ『宇宙空母ギャラクティカ』（1978-79年）に見て取れる。プロバートの作品は、流線形と近代性を強調するものが多く、『新スタートレック』（1987-94年）ではエンタープライズ号の艦橋に「タッチスクリーン」技術を導入している。プロバートのデロリアンのデザインは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』で描かれている、1980年代のアメリカ郊外に漂うどこか平凡な世界観に未来的な輝きを与えた。しかしそれは、必ずしもゼメキスとゲイルが求めたものではなかった。

「タイムマシンの最初のデザインは、ふたりに工業製品のような印象を与えたんだ」。プロバートは説明する。「それは脚本の流れにまったく合っていなかった。というのも、ドクはがらくた置き場や電気屋など、部品の多くを手当たり次第にあちこちから調達していただろうから！」。プロバートのコンテに見られる工



ステンレス製ボディ
デロリアン独特の無塗装ステンレスボディは、ガルウイングドアと相まって近未来的な印象を与える。



初期デザイン
プロバートによるデザインスケッチ。工業製品的過ぎると感じたゼメキスとゲイルは、さらなる改良を求めた。

業製品的な明瞭なラインは、“ドクのガレージでどこでも手に入るような材料で作った装置”という、ゼメキス監督の構想とは一致しなかった。「タイムマシンは危険に見えなくてはならない」「不安定で信頼できないものでなくてはならない」。ゼメキスは説明している。

ゼメキスはタイムマシンが正しく作動せず、無事に未来に帰れないかもしれないという印象を作りたがっていた。そしてまた、現実の1985年にも存在するのではないかと思わせるものを望んでいた。

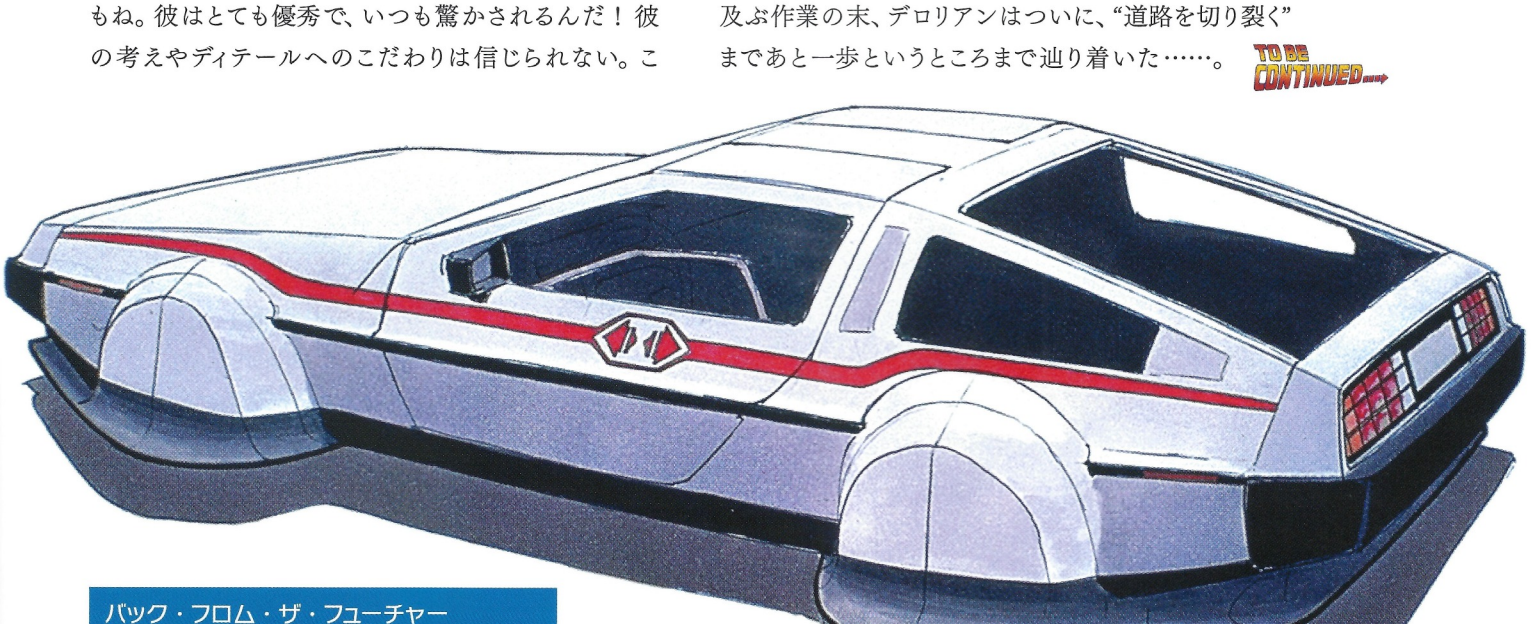
最終段階に向けて

ディテールを加えたプロバートの絵コンテが描かれたところで、ロン・コブがデザインに関わることになった。「ロンの大ファンだった」。プロバートは同僚のコンセプトアーティストについて語っている。「そして今もね。彼はとても優秀で、いつも驚かされるんだ！彼の考えやディテールへのこだわりは信じられない。このプロジェクトに入ってきたときの彼は魅力的で気立てもよく、今まで思っていた以上に才能にあふれていた。そして、あのクルマのデザインを瞬く間に作ってしまったんだ！」。

プロバートと同様、コブの専門はSFで、特に『スター・ウォーズ エピソード4／新たなる希望』(1977年)と、リドリー・スコット監督の『エイリアン』(1979年)で知られている。プロバートは流線形と近代性を特徴としていたが、コブはより荒々しいテイストを得意とした。たとえば『エイリアン』では、宇宙船ノストロモ号に“不定期貨物船”のような雰囲気を与えた。それこそ、ゼメキスがデロリアンに与えて欲しいと望んだものだった。

絵コンテの制作を続けていたアンドリュー（アンディ）・プロバートのタイムマシンへの関わりはその後も続く。ボブ・ゲイルは述べている。「私たちには、ロンをおそらく1週間しか雇う余裕がなかった。でも、アンディがこの難局を打開してくれたんだ。ロンの絵をアンディに渡し、欲しいのはこれだと伝えたのさ。リアクターが後部に置かれ、訳の分からないケーブルが車体に張り巡らされたデザインさ」。

やがて映画史を代表する車となるデザイン案を前にして、プロバートは自分がタイムマシン製作の最終段階に関わっていることを感じた。コブがプロジェクトを離れると、プロバートはコブのアイデアを取り入れてさらに洗練させ、微調整を繰り返した。数カ月に及ぶ作業の末、デロリアンはついに、“道路を切り裂く”まであと一歩というところまで辿り着いた……。 TO BE CONTINUED....



バック・フロム・ザ・フューチャー
パートIのラストシーンの絵コンテに描かれたデロリアン。ドク・ブラウンが2015年から持ち帰ったもの。



“僕が乗ったのは、この奇妙な乗り物だった……”

—— マイケル・J・フォックス ——



最初の撮影

マイケル・J・フォックスによると、ドク・ブラウンとの最初の撮影は“凍えるような午前2時の駐車場”で行われたという。

マイケル・J・フォックス

マーティ・マクフライ

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の主人公を演じ、ハリウッドスターの仲間入りを果たした彼は、当初、ほかの撮影も同時にこなしていたという。

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の主役に抜擢されたとき、23歳のマイケル・J・フォックスは既にテレビで成功を収めていた。シチュエーションコメディ『ファミリータイズ』(1982-89年)のアレックス・P・キートン役により、一躍全米に顔が知れ渡ったのである。その彼をスターダムに押し上げたのは、マーティ・マクフライであった。

『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のオファーがあったとき、フォックスは『ファミリータイズ』と掛け持ちで“タイムトラベラーとしてスケボーに乗る”ことにもなった。マーティ役の後は、『摩天楼はバラ色に』(1987年)、『再会の街／ブライトライツ・ビッグシティ』(1988年)、『カジュアリティーズ』(1989年)、『ドク・ハリウッド』(1991年)などに出演している。

1996年には、自らプロデュースし、主演も務めたシチュエーションコメディ『スピン・シティ』でテレビ界に復帰。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の盟友、ドク・ブラウン役のクリストファー・ロイドとわずかながら共演を果たしている。また、ピーター・ジャクソン監督・脚本のホラー・コメディ『さまよう魂たち』(1996年)にも出演した。その2年後、フォックスはパーキンソン病であることを告白している。ショービジネスの世界からは半ば引退し、「マイケル・J・フォックス財団」というパーキンソン病研究のための財団を設立した。

クイック・ファクト

掛け持ち

フォックスは『バック・トゥ・ザ・フューチャー』と『ファミリータイズ』の撮影を同時進行で行った。2カ月間、睡眠時間はわずか2時間だったともいう。

声の出演

フォックスは、ほかにふたつの三部作、『奇跡の旅』と『スチュアート・リトル』に出演している。両作品とも動物の声での出演だった。

デビュー

フォックスはカナダのアルバータ州で生まれ、カナダのシチュエーションコメディ『レオ・アンド・ミー』(1979年)で、18歳のときにブレイクした。

病との戦い

1991年、フォックスはパーキンソン病と診断され、1998年に公表。その後、パーキンソン病研究助成のための財団を設立した。

週刊 バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン

BACK TO THE FUTURE DELOREAN

第2号

次号予告

2月14日（火）発売

価格：本体1657円＋税

※地域によって発売日が異なる場合があります。
※内容と表紙は変更になる場合があります。
ご了承ください。

ボディパネル（左前）を組み立てる

第2号では、デロリアンの象徴ともいえる無塗装スチール製のボディを組み立てる。運転席側前方のボディパネルにサイドモールを設置しよう。また、リアセクション左側にライトを設置し、ナンバープレートも取り付ける。

パーツ



※パーツの形状は変更になる場合もあります。





ボディパネル（左前）

ライト（左側）

さあ、あのデロリアンを作ろう！
ボディパネル（左前）を組み立てる

メイキング・ザ・ムービー
映画とは異なるエンディング
—初期の脚本—

ビハインド・ザ・シーン
タイムトラベル・コンサルタント
—ロン・コブの貢献—

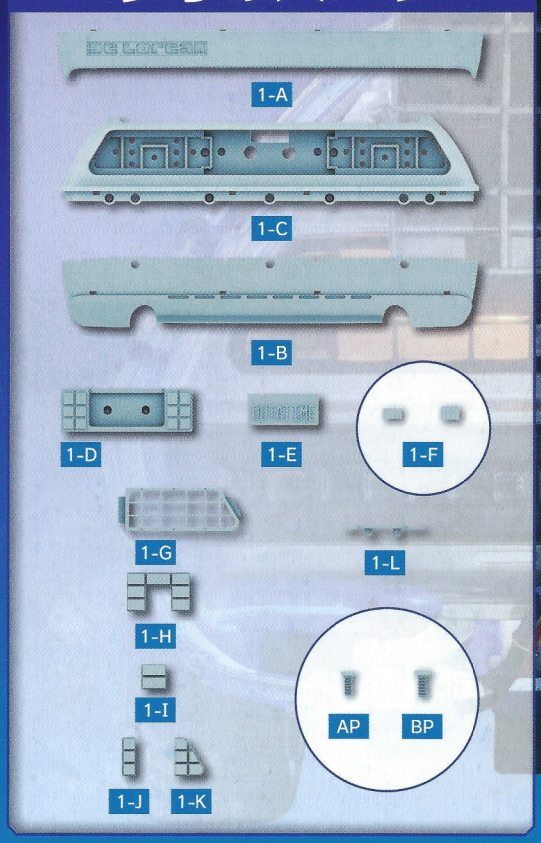
コラム・オブ・ザ・フューチャー
ヒル・バレー裁判所の時計台
—1955年11月12日—

週刊 バック・トゥ・ザ・フューチャー デロリアン

BACK TO THE FUTURE DELOREAN

今号のパーツをご紹介します。

今号のパーツ





スペック

全　長：	52.7cm
全　幅：	23.2cm
全　高：	14.3cm（ドアオープン時：24.5cm）

ギミック満載

